

## 活力のある児童を育む体育指導のあり方

### ～わかり,できる器械運動の授業づくり～

#### 1 設定理由

器械運動は技の特性から「できる」「できない」が明確に現れるため、技を身につける喜びを味わうことができる反面、できないときには、学習意欲が低下しやすい面もある。また、技術が未習熟の場合は、体への痛みやできない事への劣等感が学習意欲の低下につながっていく。

本研究では、跳び箱運動の台上前転を行う。技の局面ごとのポイントがはっきりしているの  
で、ねらいを明確にした場を設定し確かな動きを身につけさせ、できた喜びを味わわせること、子どもたちが自分でめあてを持ち友だちと教え合い、課題を見つけ解決していくことを体験することができる  
と考える。また、高学年になり、人間関係が固定化され、学級の中での立場が確立されつつあるので、  
教員が熟達雰囲気  
を強調し、教え合い、認め合いの場を多く設定することで、友だちと協力しながら器械運動に取り組ませたい。「わかり,できる喜び」から達成感や感動・自信が生まれ、次の活動へのエネルギーとなり、学習・活動する意欲や気力が充実している児童の育成、すなわち「活力のある児童」を育成することにつながると考え、本主題を設定した。

#### 2 研究仮説

仮説1 教員が熟達雰囲気を意識した言葉を強調し、教え合い、認め合う場を設定すれば、児童の学習動機が高まり、望ましい学び方が身につくだろう。

仮説2 ねらいを明確にした場を設定し、確かな動きを習得すれば、台上前転の技能が向上するだろう。

#### 3 研究内容

- (1) 先行研究の分析
- (2) 単元についての意識及び実態調査
- (3) 台上前転の技能や学習動機の向上のための指導方法の工夫
- (4) 検証授業の実施
- (5) 体育部会の各校での授業実施とデータ収集
- (6) 研究のまとめ

#### 4 結論

仮説1 教員が熟達雰囲気を意識した言葉を強調し、教え合い、認め合う場を設定したことで、児童の学習動機が高まり、望ましい学び方が身についた。

仮説2 ねらいを明確にした場を設定し、確かな動きを習得したことで、台上前転の技能が向上した。

市原市支部  
市原市立菊間小学校  
森川 稔之

## 目次

1	研究のテーマ	1
2	主題設定の理由	1
	(1) 体育の今日的課題と領域の特性から	
	(2) 児童の実態から	
3	研究の目標	2
4	研究仮説	2
5	研究の内容	2
6	研究の方法	2
7	仮説に対する手立てと検証方法	3
	(1) 仮説1に対する手立て	3
	(2) 仮説2に対する手立て	4
	(3) 検証方法	5
8	単元計画	6
9	児童の変容と実態	7
	(1) 意識の変容	7
	(2) 技能の変容	10
10	研究のまとめ	11

## 1 研究テーマ

活力のある児童を育む体育指導のあり方  
～わかり、できる器械運動の授業づくり～

## 2 主題設定の理由

### (1) 体育の今日的課題と領域の特性から

昨今、児童生徒の体力の低下傾向は社会問題の一つになっている。体力低下の原因としては、科学技術の進展、経済の発展で生活が便利になり生活様式の変化に伴う身体運動の質・量の低下、スポーツや外遊びに不可欠な要素（時間・空間・仲間）の減少、運動をする子としない子の二極化傾向などがあげられる。

器械運動は、逆さになって回転したり、手で支えて跳び越したりする巧技的な運動で、日常においてあまり経験しない非日常性と驚異性を特徴にしている。技の特性から「できる」「できない」が明確に現れるため、技を身につける喜びを味わうことができる反面、できないときには、学習意欲が低下しやすい面もある。また、技術が未習熟の場合は、体への痛みやできない事への劣等感が学習意欲の低下につながっていく。

本研究では、跳び箱運動の台上前転を行う。台上前転は、踏み切り後、腰を高く上げて腕で体を支持しながら前転をする回転系の技である。一連の動きとしてスムーズに回転するためには、①両足で強く踏み切る ②腰の位置を高く保ち跳び箱の手前に着手する ③後頭部から回り始め、背中を丸めながら真っ直ぐ回転する ④膝を曲げて柔らかく着地することが大切である。このように、技の局面ごとのポイントがはっきりしているの、ねらいを明確にした場を設定し確かな動きを身につけさせ、できた喜びを味わわせること、子どもたちが自分でめあてを持ち友だちと教え合い、課題を見つけ解決していくことを体験することができる考える。

「技ができた」「教え合い、協力し合うことができた」「技のポイントや自分の課題がわかった」など、この「わかり、できる喜び」から達成感や感動・自信が生まれる。それを繰り返すことで、次の活動へのエネルギーとなり、学習・活動する意欲や気力が充実している児童の育成、すなわち「活力のある児童」を育成することにつながると考え、本主題を設定した。

### (2) 児童の実態から

本学級の児童は、体を動かすことが好きで、休み時間や放課後に体を動かしている姿をよく見る。また、運動部または地域のスポーツクラブへも約8割の児童が加入している。体育の学習においても、約9割の児童が好きと感じていて、前向きに取り組む姿勢が学習時からもうかがえる。

今回学習する「跳び箱運動」に関しては、約6割の児童が「できると嬉しいから」や「楽しいから」という理由で、好きと感じている。その反面、約4割の児童が「できない技があるから」や「怖いから」という理由で、どちらでもない・嫌いと感じている。休み時間の活動の様子では、鬼遊びやボール遊びをしている児童が多く、鉄棒や雲梯、タイヤ遊びをする児童が少ない点からも、器械運動に苦手意識や恐怖心を持ち、否定的に感じている児童が多いのが実態である。そこで、「できる」から好き、「できない」からどちらでもない・嫌いという理由から、「できる」ようにすることが、器械運動に対する気持ちを変える大きなきっかけとなると感じた。

本研究では、恐怖心を取り除き楽しみながら運動できるような、教具の工夫をした場を設定

し、楽しく活動していたら自然と「できるようになった」という成功体験が必要だと考えた。また、高学年になり、人間関係が固定化され、学級の中での立場が確立されつつあるので、教員が熟達雰囲気<sup>i</sup>を強調し、教え合い、認め合いの場を多く設定することで、友だちと協力しながら器械運動に取り組んだり、よりよい雰囲気<sup>ii</sup>で学習したりするだろうと考え、本主題を設定した。

### 3 研究の目標

跳び箱運動において、教員が熟達雰囲気<sup>i</sup>を強調した学び合いの場を意図的に行ったり、確かな動き<sup>ii</sup>を習得するための場の工夫を設定したりすれば、児童の学習動機<sup>iii</sup>を高めながら、望ましい学び方<sup>iv</sup>が身につく、技能が向上することを明らかにする。

### 4 研究仮説

#### (1) 仮説1

教員が熟達雰囲気<sup>i</sup>を意識した言葉を強調し、教え合い、認め合う場を設定すれば、児童の学習動機が高まり、望ましい学び方が身につくだろう。

#### (2) 仮説2

ねらいを明確にした場を設定し、確かな動き<sup>ii</sup>を習得すれば、台上前転の技能が向上するだろう。

### 5 研究の内容

- (1) 先行研究の分析
- (2) 単元についての意識及び実態調査
- (3) 台上前転の技能や学習動機の向上のための指導方法の工夫
- (4) 検証授業の実施
- (5) 体育部会の各校での授業実施とデータ収集
- (6) 研究のまとめ

### 6 研究の方法

- (1) 器械運動の特性や学習過程の在り方を文献等からとらえる。
- (2) 児童の実態調査を行い、課題を明確にする。
- (3) 検証授業を行う。

①対象	市原市内小学校 5校	(合計199人)
	市原市立菊間小学校	5年 24人 (男子12人 女子12人)
	市原市立Y小学校	6年 25人 (男子11人 女子14人)
	市原市立T小学校	5年 74人 (男子32人 女子42人)
	市原市立S小学校	6年 48人 (男子34人 女子14人)

---

熟達雰囲気<sup>i</sup> 教員の熱心な関わりや肯定的な言葉かけにより、児童の努力や進歩を重視する雰囲気  
確かな動き<sup>ii</sup> ①両足で強く踏み切る ②腰の位置を高く保ち跳び箱の手前に着手する ③後頭部から回り始め、背中を丸めながら真っ直ぐ回転する ④膝を曲げて柔らかく着地すること  
学習動機<sup>iii</sup> 児童が学習活動や意欲を持続する根拠となるもの  
望ましい学び方<sup>iv</sup> 上手な人のまねをしたり、わからないことは聞いたり、繰り返し練習したりすること

②調査期間 平成28年9月～平成28年12月

③調査方法 事前、事後の技能の変容調査、質問紙法

(4) 結果を分析する。

(5) 研究のまとめをする。

## 7 仮説に対する手立て

### (1) 仮説1に対する手立て

#### ①熟達雰囲気強調(教員が意識し、意図的に発する言葉)

- ・肯定的な言葉や努力を認める言葉と技能に関わる言葉を合わせて声をかけるようにする。
- ・リフレーミングを用いて、技能に関する言葉かけをプラスの指示で行う。
- ・明確なねらいに対し、肯定的な言葉かけと評価を適切なタイミングで行う。

#### 【肯定的な言葉の例】

うまい 良かったね すごい やったね  
 跳べるよ 大丈夫だよ 最後までがんばっているね  
 もうちょっとだから、一緒にがんばろうね ~さん、がんばって挑戦したね

#### 【技能に関わる言葉の例】

膝をまげてごらん 着手の位置が良いね 脚がそろっていたよ  
 回る時におへそを見てごらん 腰が高く上がるようになったね  
 両脚がそろっててきれいだよ 昨日より膝が伸びたね

#### ②期待する児童の言葉・行動

- ・期待する児童の言葉・行動が増えるように、教員が積極的に例に挙げられている言葉・行動を率先して行う。また、毎時間の授業の最後にふり返りの時間を設け、良いアドバイスや行動を紹介する。

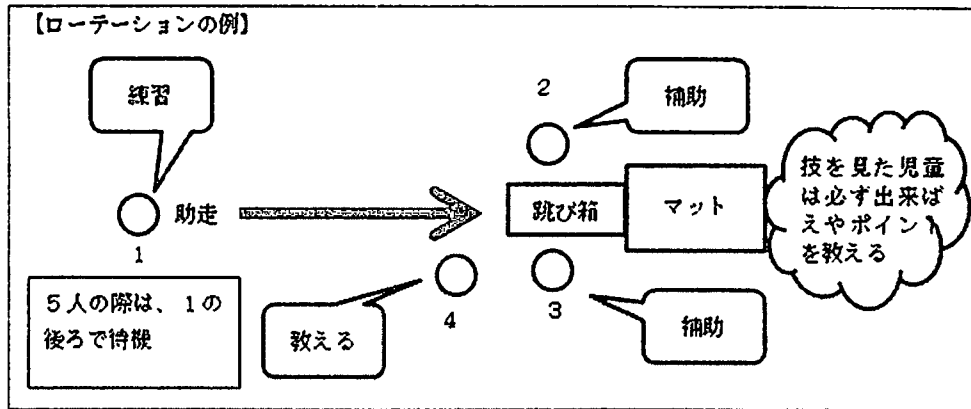
#### 【友だちの努力の認め合いの例】

よかったよ オッキー グッド 握手 拍手 ハイタッチ  
 前よりも膝が伸びてたよ できてたよ ~さんの~なアドバイスで、できたよ

#### 【技能に対する教え合いの例】

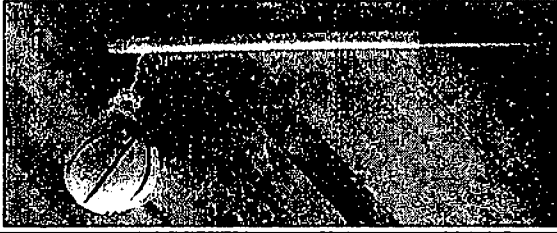


脚がそろっていたよ 着手の位置が良いね 回る時におへそを見てごらん  
 踏み切りで足をそろえるから見てね 今の踏み切りは、どうだった？  
 今言ったことを意識して、もう一回やってみな お手本をやってみるから、見ててね

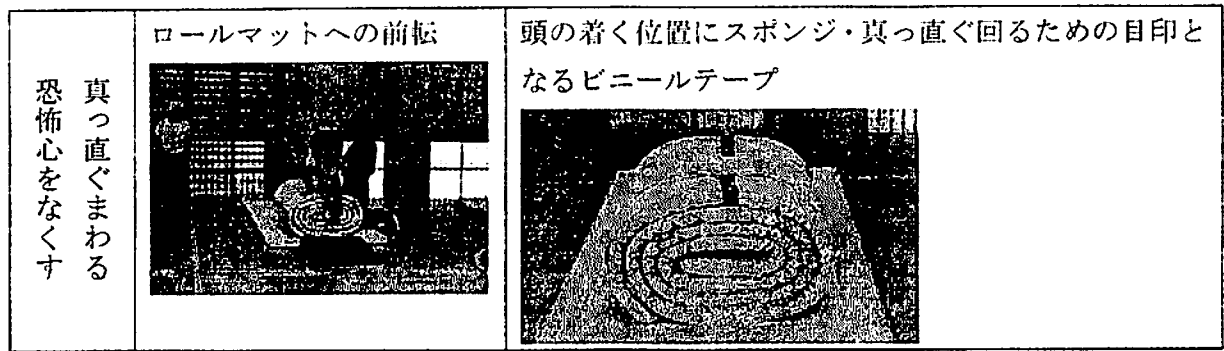
③教え合い、認め合う場



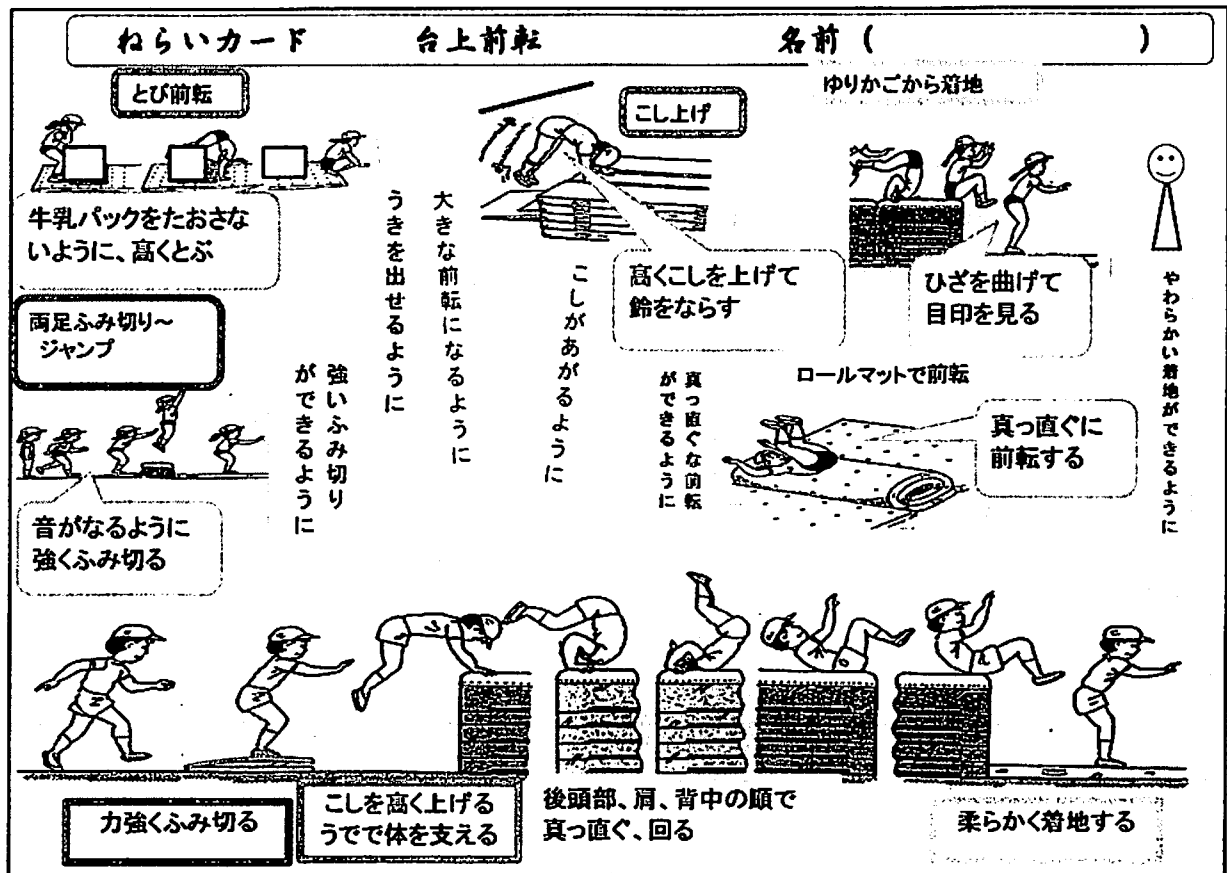
(2) 仮説2に対する手立て

①ねらいを明確にした場の設定

ねらい	場の工夫	教具の工夫
力強く踏み切る	両足踏み切り～ジャンプ 	音の鳴る踏み切り板  音のなるクッションを入れ、強く踏み切ると音が鳴る 
うでで体を支える	腰上げ 	目標物 
うきを出す	跳び前転 	牛乳パックを貼り合わせた教具、音の鳴るゴム紐  
柔らかく着地する	高いところから着地 	着地の際の目線の目印 



②ねらいや技のポイントを視覚的にわかるようにした、ねらいカード



(3) 検証方法

【仮説1】

毎時間授業後に、体育学習における「動機づけ雰囲気<sup>vi</sup>」「学習動機」「学習方略<sup>vii</sup>」の測定を、質問紙にて調査する。

【仮説2】

ビデオカメラを使い、技のできばえを判定する。(台上前転の判定基準)

2	安定した台上前転ができる。
1	台上前転ができる。(ふみきりが片足ずつ、着地が不安定など)
0	台上前転ができない。

動機づけ雰囲気<sup>vi</sup>  
学習方略<sup>vii</sup>

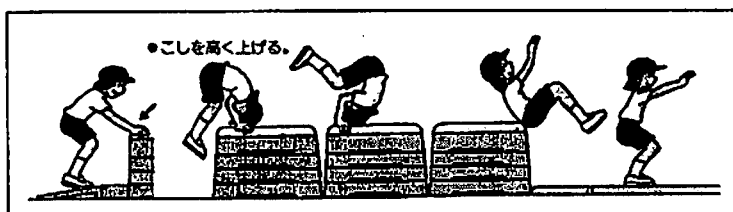
教師の言葉や行動によって、児童を一定の方向へ導いていくような雰囲気  
児童の学習課題への学び方

8 単元計画

時間	1	2	3	4	5	6	7 (本時)	8	9
めあて	「台上前転のイメージをもとう」	「台上前転につながる確かな動きを練習しよう」		「安全に着地をしよう」	「2, 3歩助走からの台上前転をしよう」	「安定した台上前転をしよう」			「台上前転を入れた発表会をしよう」
(分)	5	○あいさつ・健康観察・準備運動							
10	学習の進め方	○体づくりタイム (体の柔らかさ及び巧みさを高める運動)							
15	約束の確認	○確かな動きづくり							
20		①両足踏み切り～ジャンプ				安定した台上前転			発表会
25	跳び箱の基礎・技能の確認	②腰上げ		着地	2, 3歩助走からの台上前転				
30		③跳び前転				大きな台上前転			
35		④ロールマットへの前転							
40		⑤ゆりかごから着地							
45		片付け・整理運動・健康観察・あいさつ							

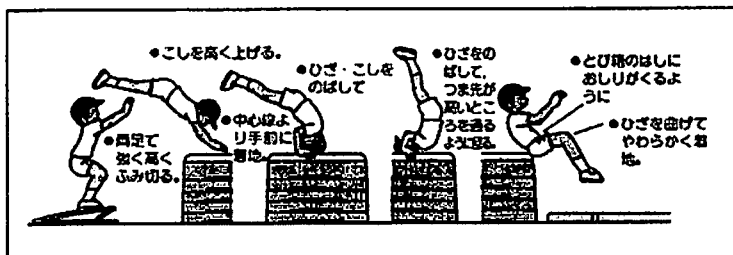
※安定した台上前転

助走から回転して着地まで、一連の動きとしてスムーズに跳び越えること。



※大きな台上前転

助走から両足で強く踏み切り、腰を大きく開くとともに膝を伸ばした姿勢で着手し、台上で回転して着地すること。



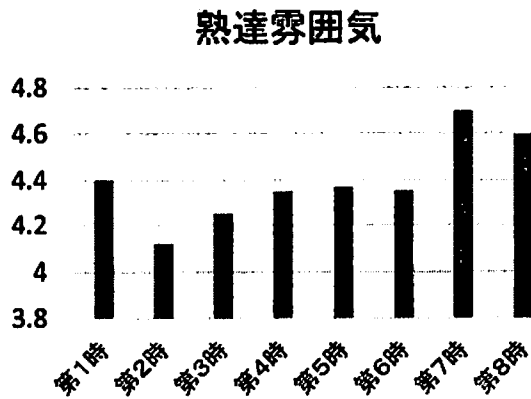


## 9 児童の変容と実態

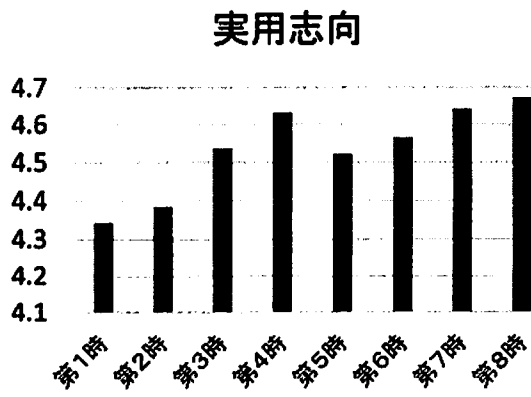
### (1) 意識の変容

・体育学習後のアンケート結果

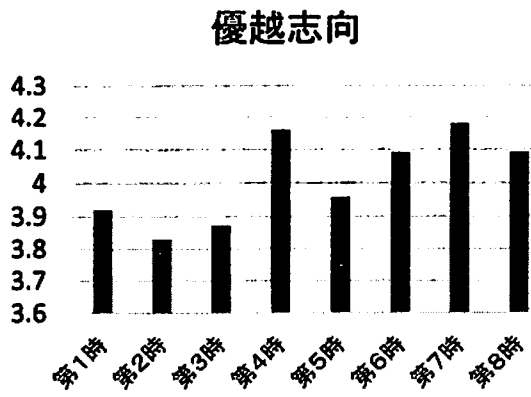
【グラフ1】



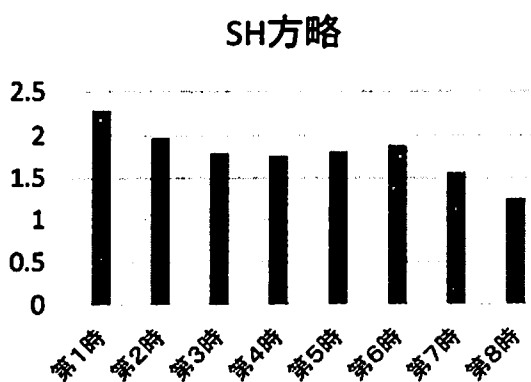
【グラフ3】



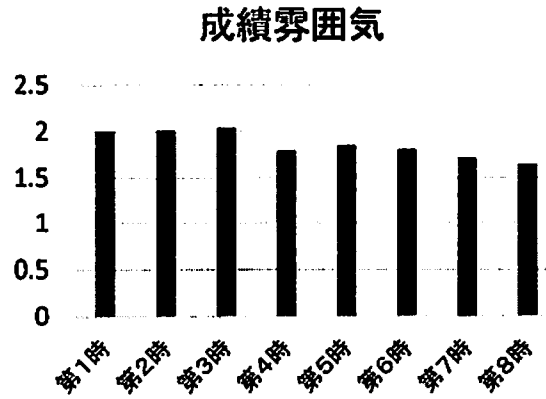
【グラフ5】



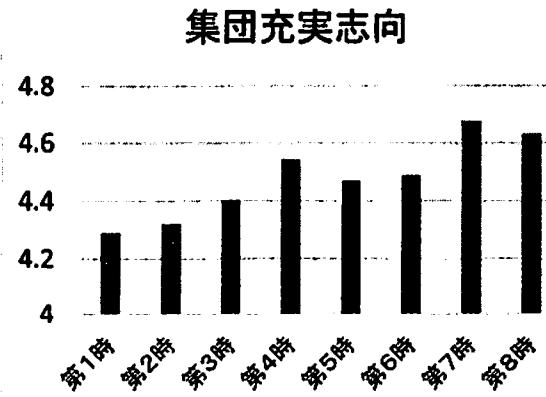
【グラフ7】



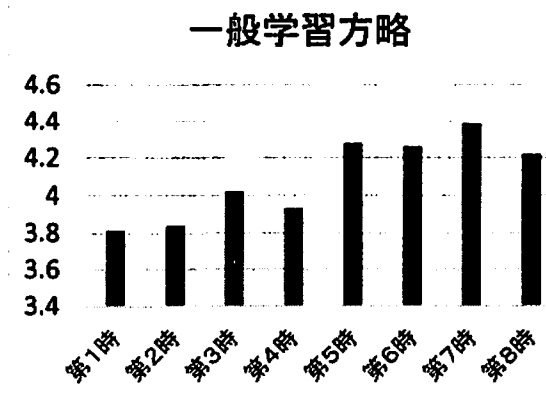
【グラフ2】



【グラフ4】



【グラフ6】



【表1】各尺度の相関係数

(動機づけ雰囲気尺度, 学習動機尺度, 学習方略尺度)

	熟達雰囲気	実用志向	集団・充実志向	優越志向
成績雰囲気	h 0.80			
実用志向	a 0.62			
集団・充実志向	b 0.80			
優越志向	c 0.75			
一般学習方略	g 0.67	d 0.69	e 0.78	f 0.58
SH 方略	i -0.60	j -0.88	k -0.87	l -0.56

【図1】相関係数

相関係数 (絶対値)	相関の強さの目安
~0.3未満	ほぼ無相関
0.3~0.5未満	非常に弱い相関
0.5~0.7未満	相関がある
0.7~0.9未満	強い相関
0.9以上	非常に強い相関

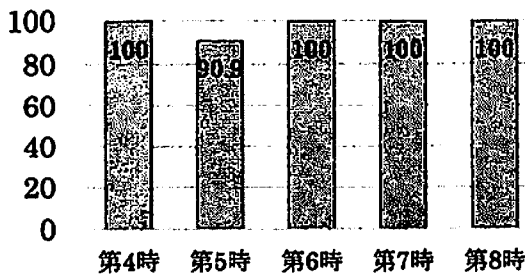
**熟達雰囲気** 教員の熱心な関わりや肯定的な言葉かけにより、児童の努力や進歩を重視する雰囲気

**成績雰囲気** 教員が記録や勝敗を重視した雰囲気  
**実用志向** 体育を通して、体力を高めたいと思うこと  
**集団・充実志向** 友だちと一緒に運動したり、練習したりしたいと思うこと  
**優越志向** 友だちと競争して勝ちたいと思うこと  
**一般学習方略** 体育学習を自律的かつ積極的に行うための学び方  
**SH 方略** 学習課題に対して、回避的な学び方

・教え合いカードの集計による児童の変容

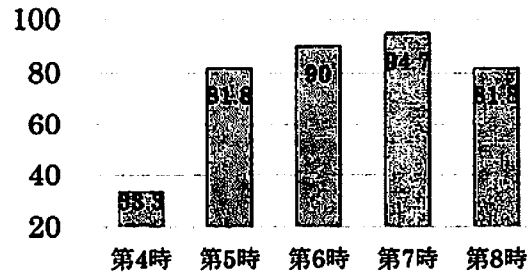
【グラフ8】

①自分からした教え合い・認め合いの言葉・行動 (%)



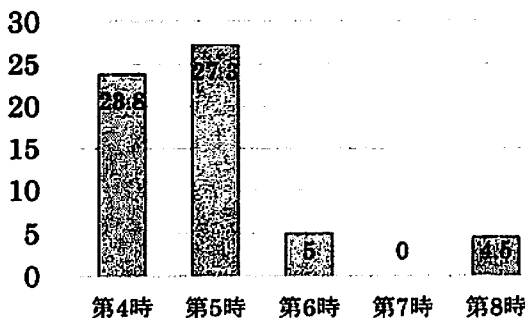
【グラフ9】

②自分から聞いた、教え合い (%)



【グラフ10】

③その他否定的な言葉かけ (%)



### 【仮説1の考察】

熟達雰囲気の数値が学習時間を追って上昇し学習動機の a 実用志向<sup>viii</sup>, b 集団・充実志向<sup>ix</sup>, c 優越志向<sup>x</sup>と正の相関を示した。先行研究では、熟達雰囲気が集団・充実志向や実用志向の学習内容にかかわる内発的な学習動機を高めることが報告されている。本研究では、優越志向といった学習の結果にかかわる外発的な学習動機を高める方向で影響していることも明らかになった。これは、運動を学習内容とすることが多い体育学習において、個人が努力することとその結果として他者との比較・競争による評価を獲得することが密接に関連していることを示していると考えられる。これらのことから、児童は実用志向、集団・充実志向、優越志向といった学習動機を併せ持つ可能性が示唆された。さらに、熟達雰囲気は d 実用志向, e 集団・充実志向, f 優越志向の学習動機を介して, g 一般学習方略<sup>xi</sup>と正の相関を示したことから、児童は望ましい学び方を身につけることができたと考えられる。

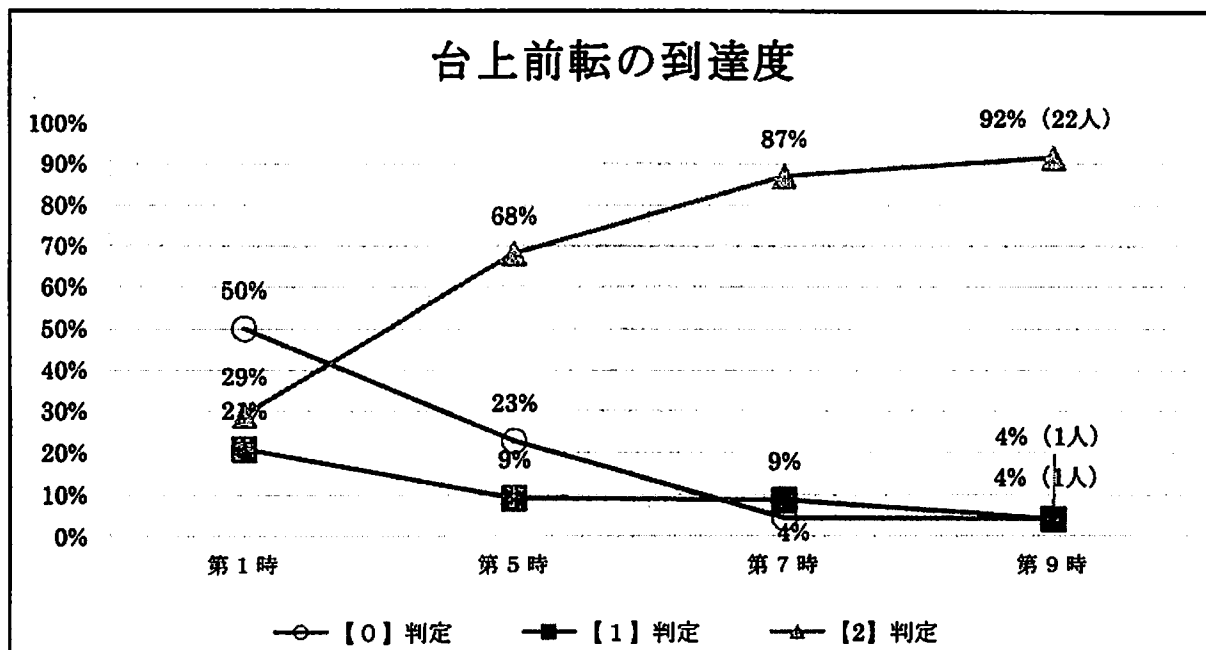
対して、熟達雰囲気は h 成績雰囲気<sup>xii</sup>と強い負の相関を示した。教員の熱意のある指導や称賛の声、努力を認める態度が児童の成績への「抵抗感」や失敗への「恐怖」を緩和し、安心して学習できる雰囲気につながっているものと考えられる。また、熟達雰囲気は i SH 方略<sup>xiii</sup>への負の相関が見られた。j 実用志向, k 集団・充実志向, l 優越志向が SH 方略と負の相関を示したことから、熟達雰囲気が、それらの学習動機を介して SH 方略の使用に負の影響を示すことが明らかになった。

教え合いカードの集計結果から、「自分から聞いた、教え合い」の項目が第5時以降、高い数値で推移し、「否定的な言葉かけ」の数値が第6時以降、低下したことから、児童が望ましい学び方を身につけた結果と言える。

---

実用志向 <sup>viii</sup>	体育を通して、体力を高めたいと思うこと
集団・充実志向 <sup>ix</sup>	友だちと一緒に運動したり、練習したりしたいと思うこと
優越志向 <sup>x</sup>	友だちと競争して勝ちたいと思うこと
一般学習方略 <sup>xi</sup>	体育学習を自律的かつ積極的に行うための学び方
成績雰囲気 <sup>xii</sup>	教員が記録や勝敗を重視した雰囲気
SH 方略 <sup>xiii</sup>	学習課題に対して、回避的な学び方

(2) 技能の変容



2	安定した台上前転ができる。
1	台上前転ができる。(ふみきりが片足ずつ、着地が不安定など)
0	台上前転ができない。

【仮説2の考察】

第1時では、到達度の判定が「0」で、台上前転ができない児童が多く見られた。これは恐怖心から跳び箱に頭がつけられない、あるいは踏み切りのときに腰が高く上げられないなどのことが要因として考えられる。また、到達度の判定が「1」で、跳び箱の上で真っ直ぐに回転できなかつたり、着地が安定しなかつたりする児童が複数見られた。これは、「確かな動き」の跳び前転が習得できていなかったことや、着手の位置が跳び箱の中央付近になったことが要因として考えられる。

第5時・第7時・第9時では、できばえ判定の「2」の児童が大きく増加した。これは、「確かな動き」の練習を続けたことで、台上前転の踏み切り、着手からの腰上げ、スムーズな回転、着地の技能が一連の動作として身についてきたためと推察される。さらに、「集団・充実志向」の数値が増加したり、教え合いカードの「自分から聞いた、教え合い」の項目が第5時以降、高い数値で推移したりしたことからも、児童が主体的に学習に取り組んだ結果と言える。

学習方略尺度の「SH方略」の数値が減少し、それに対して「一般学習方略」の数値は増加していることから、児童の望ましい学び方が身につく、技能面の向上に影響していると考えられる。

## 10 研究のまとめ

### (1) 成果

#### ①仮説1について

教員が熟達雰囲気を意識した言葉を強調し、教え合い、認め合う場を設定したことで、児童の学習動機が高まり、望ましい学び方が身についた。

#### ②仮説2について

ねらいを明確にした場を設定し、確かな動きを習得したことで、台上前転の技能が向上した。

### (2) 課題

#### ①仮説1について

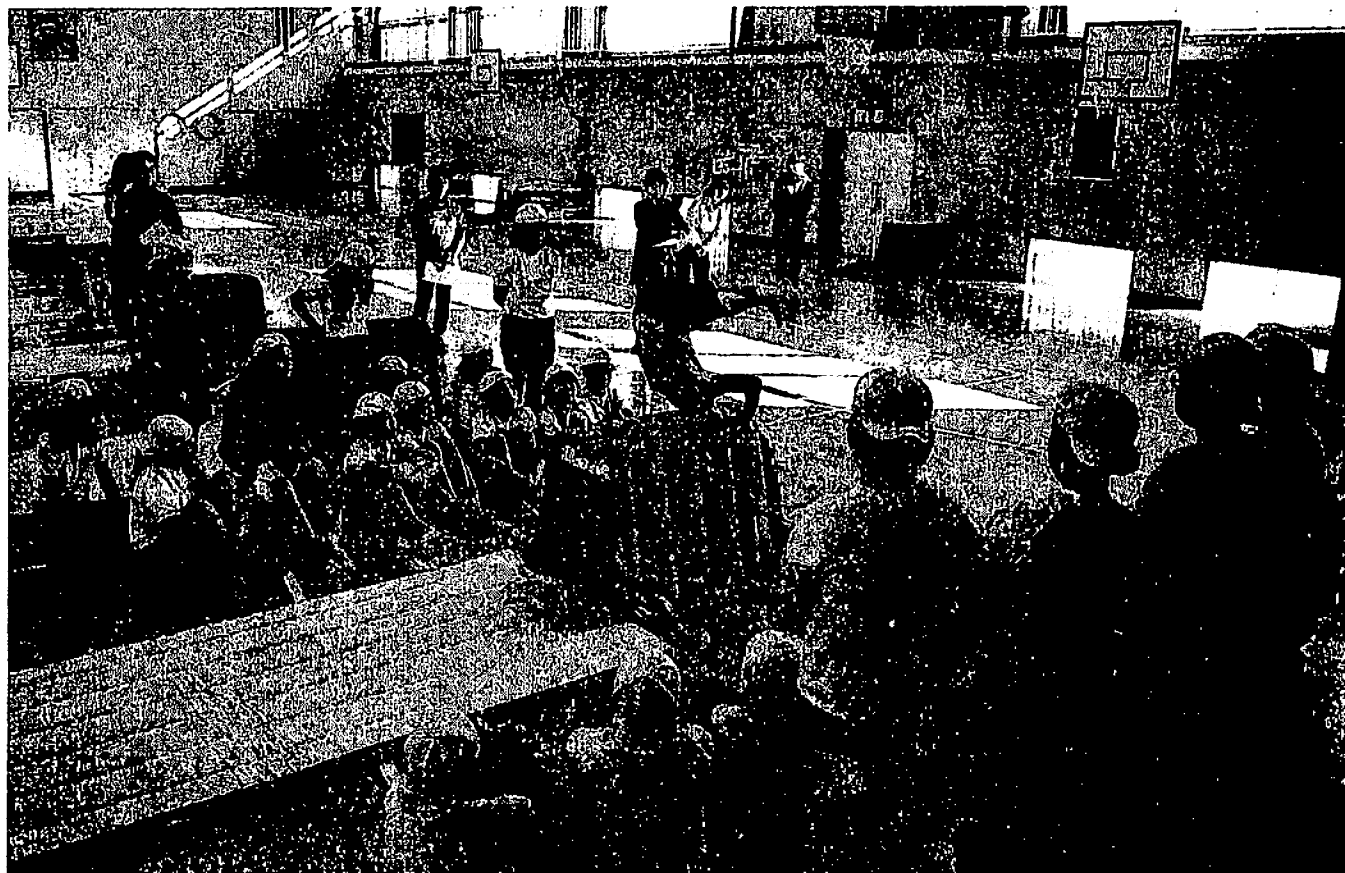
熟達雰囲気に焦点をあてた研究だったので、調査項目を精選してもよかった。

#### ②仮説2について

今回設定した、確かな動きが台上前転の技能向上とどのような関連があるのかを調べるには、毎時間の追跡調査が必要だった。

確かな動きづくりの身につけさせたい技能に加えて、主運動の時間で台上前転への恐怖心を和らげる場の工夫や手立てを講じることができれば、技の完成度を高めることができたと考えられる。

# 資料編



# 目次

1	授業について・・・・・・・・・・	1
	(1) 単元名    (2) 実態調査	
	(3) 単元目標    (4) 単元計画	
	(5) 評価規準	
	(6) 授業の展開及び指導・評価計画	
2	本時の目標及び展開・・・・・・・・	6
	(1) 目標	
	(2) 展開	
3	場の設定・・・・・・・・・・	8
4	協力校の変容（情意面）・・・・・・・・	9
5	協力校の変容（技能面）・・・・・・・・	10
6	菊間小学校 確かな動きの変容・・	10
7	菊間小学校 動機づけ雰囲気認知, 学習動機, および方略使用の関連について・・・・・・・・	11
8	各尺度の相関係数・・・・・・・・	11
9	菊間小学校 情意面の変容・・	12
10	体育学習に関するアンケート・・	13
11	教え合いカード・・・・・・・・	14
12	参考文献・・・・・・・・	14

1 授業について

(1) 単元名 跳び箱運動「台上前転」

(2) 実態調査

調査対象 市原市立菊間小学校 5年 27人 (見学3人)  
男子13人 (見学1人) 女子14人 (見学2人)

調査方法 質問紙法 技能調査 (マット・跳び箱運動)

(意識調査)

①体育の学習は、好きですか。

好き	どちらでもない	きらい
22人 (92%)	2人 (8%)	0人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を動かすのが好きだから</li> <li>・楽しいから</li> <li>・できると嬉しいから</li> <li>・ボール運動が好きだから</li> <li>・水泳学習が好きだから</li> <li>・マット運動が好きだから</li> <li>・体に良いから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動によって好き嫌いがあるから</li> <li>・思うように体を動かせないから</li> </ul>	
好きな運動		
リレー9 マット11 バasketボール9 サッカー8 なわとび10 ダンス7 跳び箱5 短距離5 鉄棒3 バレーボール2 ポートボール1 ハードル1		

②跳び箱運動は好きですか。

好き	どちらでもない	きらい
15人 (68%)	5人 (21%)	4人 (11%)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・できると嬉しいから</li> <li>・楽しいから</li> <li>・ジャンプ力がつくから</li> <li>・高いところが好きだから</li> <li>・達成感があるから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できないから</li> <li>・できる時とできない時があるから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できないから</li> <li>・こわいから</li> </ul>
知っている技は、何ですか。		
開脚跳び 閉脚跳び 台上前転		

③体育の学習中に、友達と仲良く協力できていますか？

できている	どちらでもない	できていない
21人 (88%)	3人 (12%)	0人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しいから</li> <li>・早くできるから</li> <li>・できるようになるから</li> <li>・自分のためになるから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話すのが苦手で、できないときもあるから</li> <li>・できないときもあるから</li> </ul>	

④運動部やスポーツクラブに所属していますか。

部活動の運動部に所属している	スポーツクラブに所属している	両方やっていない
17人 (74%)	13人 (54%)	5人 (21%)



陸上部 14人 水泳部 6人 バスケットボール部 8人 サッカー部 1人 相撲部 1人	スイミング 4人 ダンス 3人 バスケットボール 2人 サッカー 2人 野球 1人 空手 1人	
---	---	--

(技能調査)

種目	できる	できない	種目	できる	できない
前転	22人	2人	跳び前転	1人	23人
開脚跳び(5段)	15人	9人	腰上げ(肩の位置まで腰が上がる)	16人	8人
台上前転 1段(助走なし)	20人	4人	台上前転 4段(助走あり)	12人	12人
2	安定した台上前転ができる。				7人
1	台上前転ができる。(ふみきりが片足ずつ, 着地が不安定など)				5人
0	台上前転ができない。				12人

(3) 単元目標

- 安定した台上前転ができる。 (技能)
- 進んで跳び箱運動に取り組み, 安全に気をつけ, 友だちと協力して練習することができる。 (態度)
- 自分のめあてを意識して, 運動することができる。また, 友だちにアドバイスすることができる。 (思考・判断)

(4) 単元計画 (9時間)

時間	1	2	3	4	5	6	7 (本時)	8	9
めあて	「台上前転のイメージをもとう」	「台上前転につながる確かな動きを練習しよう」		「安全に着地をしよう」	「2, 3歩助走からの台上前転をしよう」	「安定した台上前転をしよう」 「大きな台上前転をしよう」			「台上前転を入れた発表会をしよう」

(5) 評価規準

評価の観点	技能	態度	思考・判断
単元の評価規準	・安定した台上前転ができる。	・進んで跳び箱運動に取り組み, 安全に気をつけ, 友だちと協力して練習しようとしている。	・自分のめあてを意識して, 運動することができる。また, 友だちにアドバイスしている。

学習活動に即した評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>○台上前転の基礎となる動きを正確にできる。</li> <li>○安全に着地ができる。</li> <li>○両脚をそろえて踏切をし、着手の位置が正しく、膝を曲げて柔らかく着地ができる。</li> <li>○安定した台上前転ができる。</li> <li>○自分の力に合った台上前転ができる。</li> <li>○台上前転ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○跳び箱運動の技を知り、進んで技に取り組もうとしている。</li> <li>○安全に気をつけて、友だちと協力して運動に取り組もうとしている。</li> <li>○進んで跳び箱運動に取り組む、安全に気をつけ、友だちと協力して練習しようとしている。</li> <li>○意欲的に技を発表し、お互いの伸びを認め合いながら、安全に気をつけて運動しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の進め方をつかんでいる。</li> <li>○友だちにアドバイスをしたり、励ましたりしている。</li> <li>○自分のめあてを意識して、運動することができる。</li> </ul>
--------------	---	---	--

(6) 授業の展開及び指導・評価計画

過程	時	学習活動	指導・支援 (○), 評価 (☆)
はじめ	第1時	オリエンテーション ○学習の筋道やねらいがわかり、学習の進め方を知る。 ○用具の安全を確認し、約束を話し合う。 ○跳び箱運動の技を知り、自分のできる技を知る。 ○練習方法や補助の仕方を確認し合う。	○毎時間の学習の流れがわかるように、学習の流れを確認する。 ○安全に用具を運んだり、使ったりできるように、一つ一つ共通理解する。 ○本単元を通して、自分のめあてが持てるように、自分の技能を知る。 ○ねらいに沿った正しい練習になるように、正しい動きを伝える。 ☆跳び箱運動の技を知り、進んで技に取り組もうとしている。(態度) ☆学習の進め方をつかんでいる。(思考・判断)
なか	第2時・第3時	○準備運動・体づくりタイム ○場作り <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;">台上前転につながる技を練習しよう</div> ○確かな動きづくり ①両足踏み切り～ジャンプ	○安全に運動ができるように、身体の各部位を十分に動かすようにさせる。 ○安全に素早く準備しているグループをほめる。 ○ねらいを踏まえた確かな動きとなるように、声をかけながら、台上前転の基礎となる動きづくりを行う。 ○力強い両足踏み切りになるように、音のなる踏み切り板を使い、力強さを意識した踏み切りをさせる。

	<p>②腰上げ</p> <p>③跳び前転</p> <p>④ロールマットへの前転</p> <p>⑤ゆりかごから着地</p>	<p>○肩の位置よりも腰が高く上がるように、目標物を設置し、頭を入れて腰上げをさせる。</p> <p>○膝を伸ばした前転になるように、前転中に自分の膝を見させる。</p> <p>○浮きのある跳び前転になるように、ゴム紐や、牛乳パックを貼り合わせた物に当たらないように、跳び前転をさせる。</p> <p>○段数が高くなった際にも、スムーズにできるように、着手や真っ直ぐな前転を意識させながら、前転をさせる。</p> <p>○安全に着地が行えるように、膝を曲げることや、目線を意識した着地をさせる。</p> <p>☆台上前転の基礎となる動きを正確にできる。 (技能)</p> <p>☆友だちにアドバイスをしたり、励ましたりしている。 (思考・判断) ②</p> <p>☆自分のめあてを意識して、運動することができる。 (思考・判断) ③</p>
<p>第4時</p>	<p>○準備運動・体づくりタイム</p> <p>○場作り</p> <p>○確かな動きづくり</p> <p>①両足踏み切り～ジャンプ</p> <p>②腰上げ</p> <p>③跳び前転</p> <p>④ロールマットへの前転</p> <p>⑤ゆりかごから着地</p>	<p>○安全に運動ができるように、身体の各部位を十分に動かすようにさせる。</p> <p>○安全に素早く準備しているグループをほめる。</p> <p>○ねらいを踏まえて確かな動きとなるように、声をかけながら、台上前転の基礎となる動きづくりを行う。</p>
<p>安全に着地をしよう</p>		
	<p>○ゆりかごからの着地</p> <p>○跳び箱を2台つなげて並べ、前転からの着地</p> <p>○高さの違う跳び箱2台をつなげて並べ、階段式にして前転からの着地</p>	<p>○安全に着地が行えるように、膝を曲げることと、目線を意識するように、声かけをする。</p> <p>○安心して取り組めるように、恐怖心のある児童には、跳び箱にマットをかけた場で安心感の中で行わせる。</p> <p>○着地の際に、お尻から落ちないように、手前に着手し後頭部から着くように、声かけをする。</p> <p>☆安全に着地ができる。 (技能)</p> <p>☆安全に気をつけて、友だちと協力して運動に取り組もうとしている。 (態度)</p>

<p>第 5 時</p>	<p>○準備運動・体づくりタイム</p> <p>○場作り</p> <p>○確かな動きづくり。</p> <p>①両足踏み切り～ジャンプ</p> <p>②腰上げ</p> <p>③跳び前転</p> <p>④ロールマットへの前転</p> <p>⑤ゆりかごから着地</p>	<p>○安全に運動ができるように、身体の各部位を十分に動かすようにさせる。</p> <p>○安全に素早く準備しているグループをほめる。</p> <p>○ねらいを踏まえて確かな動きとなるように、声をかけながら、台上前転の基礎となる動きづくりを行う。</p>
<p>2, 3歩助走からの台上前転をしよう</p>		
<p>第 6 時</p>	<p>○2, 3歩助走の台上前転</p>	<p>○次時に行う台上前転が、スムーズにできるように以下の点を意識させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・両脚をそろえて、踏み切る。</li> <li>・跳び箱の手前に、着手する。</li> <li>・後頭部を跳び箱の手前につける。</li> <li>・膝を曲げて柔らかく着地する。</li> </ul> <p>☆両脚をそろえて踏切をし、着手の位置が正しく、膝を曲げて柔らかく着地ができる。(技能)</p> <p>☆友だちにアドバイスをしたり、励ましたりしている。(思考・判断)</p>
<p>第 7 時</p>	<p>○準備運動・体づくりタイム</p> <p>○場作り</p> <p>○確かな動きづくり。</p> <p>①両足踏み切り～ジャンプ</p> <p>②腰上げ</p> <p>③跳び前転</p> <p>④ロールマットへの前転</p> <p>⑤ゆりかごから着地</p>	<p>○安全に運動ができるように、身体の各部位を十分に動かすようにさせる。</p> <p>○安全に素早く準備しているグループをほめる。</p> <p>○ねらいを踏まえて確かな動きとなるように、声をかけながら、台上前転の基礎となる動きづくりを行う。</p>
<p>第 8 時</p>	<p>○安定した台上前転</p>	<p>○安定した台上前転をしよう</p> <p>○スムーズな台上前転ができるように、後頭部→肩→背中→腰の順につかせる。</p> <p>○腰を高くあげるために、第一踏み切りを大きくし、第二踏み切りで高さを出すように助言する。</p> <p>○着地の際に、お尻から落ちないように、手前に着手し後頭部から着くように、声かけをする。</p> <p>○恐怖心がある児童には、補助に入って、自信をもたせる。</p>

			○見てほしいポイントを友だちに伝えてから、練習させる。
		大きな台上前転をしよう	
		○大きな台上前転	<p>○腰を高くあげるために、第一踏み切りを大きくし、第二踏み切りで高さを出すように助言する。</p> <p>○大きな台上前転になるように、腰を大きく開くとともに膝を伸ばした姿勢で着手するように、助言する。</p> <p>○浮きを出すために、第二踏み切りから着手の間に、ゴム紐を引き当たらないように、跳ばせる。</p> <p>○見てほしいポイントを友だちに伝えてから、練習させる。</p> <p>☆安定した台上前転をすることができる。 (技能) ⑥</p> <p>☆自分の力に合った台上前転をすることができる。 (技能) ⑦⑧</p> <p>☆進んで跳び箱運動に取り組み、安全に気をつけ、友だちと協力して練習しようとしている。 (態度) ⑥</p> <p>☆友だちにアドバイスをしたり、励ましたりしている。 (思考・判断) ⑦</p> <p>☆自分のめあてを意識して、運動することができる。 (思考・判断) ⑧</p>
ま と め	第 9 時	発表会 ○練習した技の成果を発表する。	<p>○練習した成果を発揮できるように、士気を高めながら発表させる。</p> <p>☆台上前転ができる。 (技能)</p> <p>☆意欲的に技を発表し、お互いの伸びを認め合いながら、安全に気をつけて運動しようとしている。 (態度)</p>

## 2 本時の目標及び展開

### (1) 目標

- 自分の力に合った台上前転をすることができる。 (技能)
- 友だちにアドバイスをしたり、励ましたりしている。 (思考・判断)

(2) 展開

過程	時	学習活動	指導・支援 (○), 評価 (☆)
はじめ		1. あいさつ・健康観察  2. 準備運動  3. 体づくりタイム カエル倒立  その場腰上げ  4. 場作り  5. 確かな動きづくり ① 跳び前転 ② 両足踏み切り～ジャンプ ③ 腰上げ ④ 高いところから着地 ⑤ ロールマットへの台上前転  6. めあてを確認  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">             自分のめあてに合った台上前転をしよう           </div> 7. 自分のめあてに合った台上前転 ・踏み切りについて(両脚で) ・着手について(着手の位置) ・姿勢について(スムーズに) (膝を伸ばす) (浮きをつくる)	○あいさつをして、気持ちを切り替える。健康状態の確認をする。  ○安全に運動ができるように、身体各部位を十分に動かすようにさせる。  ○腕支持感覚が身につくように、体が安定する位置を見つけさせる。 ○体重が肩に乗るように、2人組で声をかけ合いながら、取り組ませる。 ○安全に素早く準備しているグループをほめる。 ○ねらいを踏まえて確かな動きとなるように、声をかけながら、台上前転の基礎となる動きづくりを行う。  ○示範を見せ、自分のめあてとするポイントを確認する。 ・踏み切りを強くする。 ・両脚をそろえて踏み切る。 ・浮きをつくる。 ・跳び箱の手前に着手し、後頭部からつけるようにする。 ・台上で真っ直ぐ前転する。 ・つま先から膝を伸ばす。 ・膝を曲げて柔らかく着地する。 等 ○それぞれのめあてに応じた場で、示範をみるように助言する。

・着地について  
(柔らかく着地)

○腰を高くあげるために、第一踏み切りを大きくし、第二踏み切りで高さを出すように助言する。

○着地の際に、お尻から落ちないように、手前に着手し後頭部から着くように、声かけをする。

○恐怖心がある児童には、補助に入って、自信をもたせる。

○見てほしいポイントを友だちに伝えてから、練習させる。

☆友だちにアドバイスをしたり、励ましたりしている。 (思考・判断)

8. 見合い

○めあてに合った台上前転ができているか、友だち同士で教え合いや認め合いをするように声かけをする。

☆自分の力に合った台上前転をすることができる。 (技能)

9. 本時の振り返り

○本時のめあてができたかどうか振り返り、発表する。

10. 次時のめあて

○本時の振り返りをもとに、次時のめあてを持たせる。

11. 片付け

○協力して素早く片付けるよう励ます。

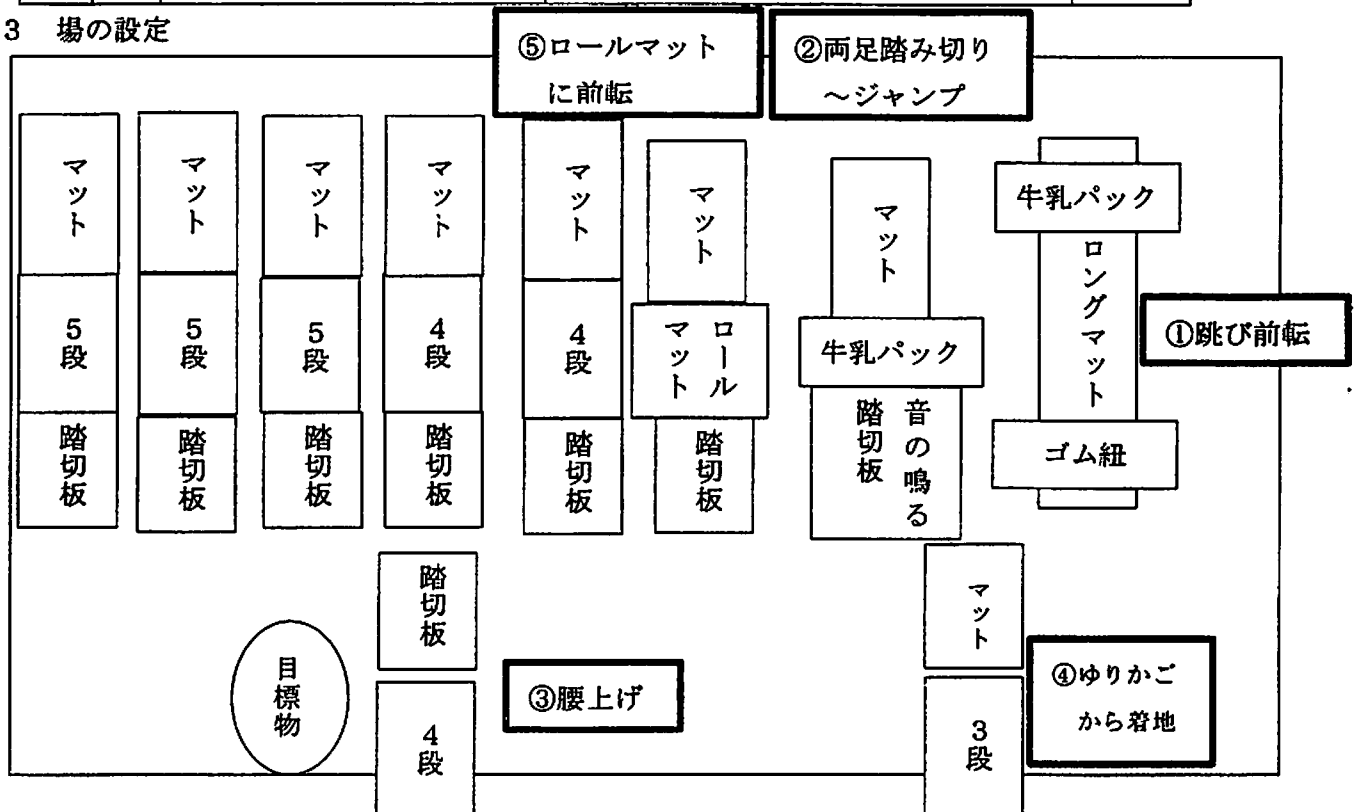
12. 整理運動

○全身の力を抜いて、行わせる。

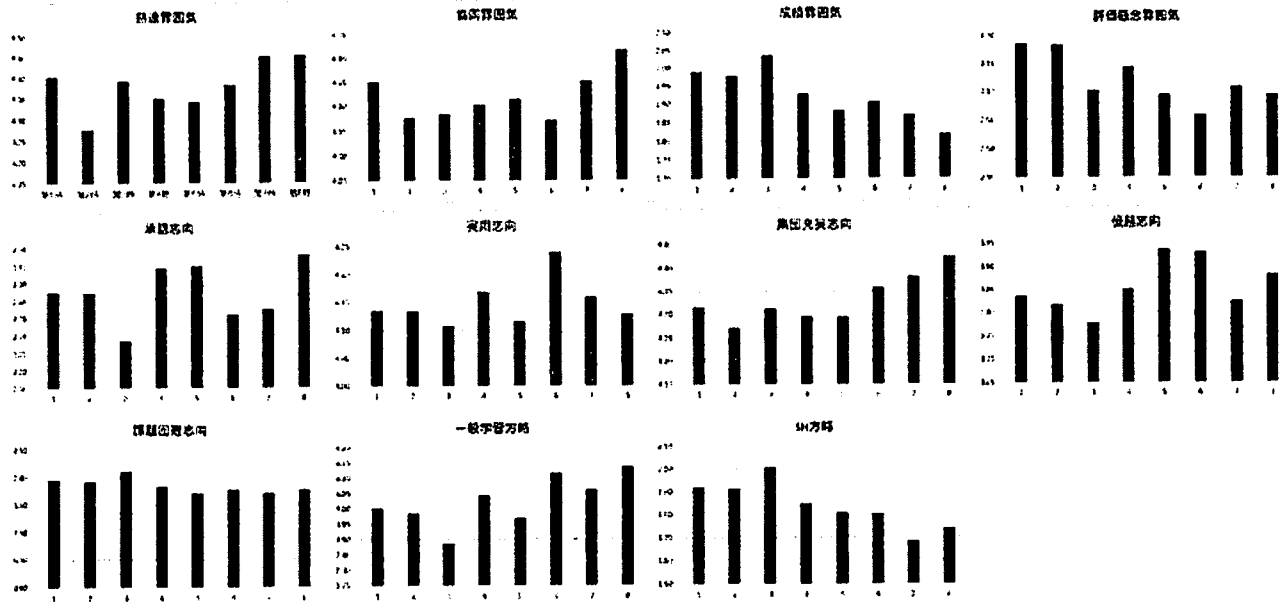
13. 健康観察・あいさつ

○健康状態を確認し、あいさつをする。

### 3 場の設定



#### 4 協力校の変容（情意面）



	動機づけ雰囲気尺度				学習動機尺度				学習方略尺度		
	熟達雰囲気	協同雰囲気	成績雰囲気	評価懸念雰囲気	承認志向	実用志向	集団充実志向	優越志向	課題回避志向	一般学習方略	S H方略
	列 1	列 2	列 3	列 4	列 5	列 6	列 7	列 8	列 9	列 10	列 11
列 1	1.00										
列 2	0.73	1.00									
列 3	-0.44	-0.61	1.00								
列 4	-0.42	-0.03	0.51	1.00							
列 5	-0.06	0.53	-0.63	0.14	1.00						
列 6	0.05	-0.30	-0.24	-0.37	-0.16	1.00					
列 7	0.88	0.72	-0.76	-0.56	0.11	0.23	1.00				
列 8	-0.02	0.08	-0.65	-0.52	0.51	0.44	0.21	1.00			
列 9	-0.23	-0.35	0.91	0.43	-0.55	-0.38	-0.44	0.72	1.00		
列 10	0.44	0.48	-0.78	-0.33	0.43	0.64	0.72	0.53	0.69	1.00	
列 11	-0.50	-0.53	0.94	0.46	-0.43	-0.36	-0.69	-0.51	0.93	-0.78	1.00

	動機づけ雰囲気尺度				学習動機尺度				学習方略尺度		
	熟達雰囲気	協同雰囲気	成績雰囲気	評価懸念雰囲気	承認志向	実用志向	集団充実志向	優越志向	課題回避志向	一般学習方略	S H方略
第1時	4.40	4.25	1.99	3.19	2.29	4.13	4.31	3.84	1.95	4.00	4.02
第2時	4.28	4.18	1.98	3.18	2.29	4.13	4.27	3.82	1.91	3.98	4.01
第3時	4.36	4.18	2.04	3.10	2.23	4.11	4.31	3.78	2.10	4.08	4.01
第4時	4.35	4.20	1.93	3.14	2.32	4.17	4.30	3.95	1.82	4.04	4.05
第5時	4.34	4.21	1.88	3.09	2.32	4.11	4.29	3.93	1.70	3.97	4.01
第6時	4.38	4.17	1.90	3.06	2.26	4.24	4.35	3.93	1.77	4.12	4.00
第7時	4.45	4.25	1.87	3.11	2.27	4.16	4.38	3.92	1.69	4.08	4.08
第8時	4.45	4.32	1.82	3.09	2.33	4.13	4.42	3.88	1.76	4.14	4.04

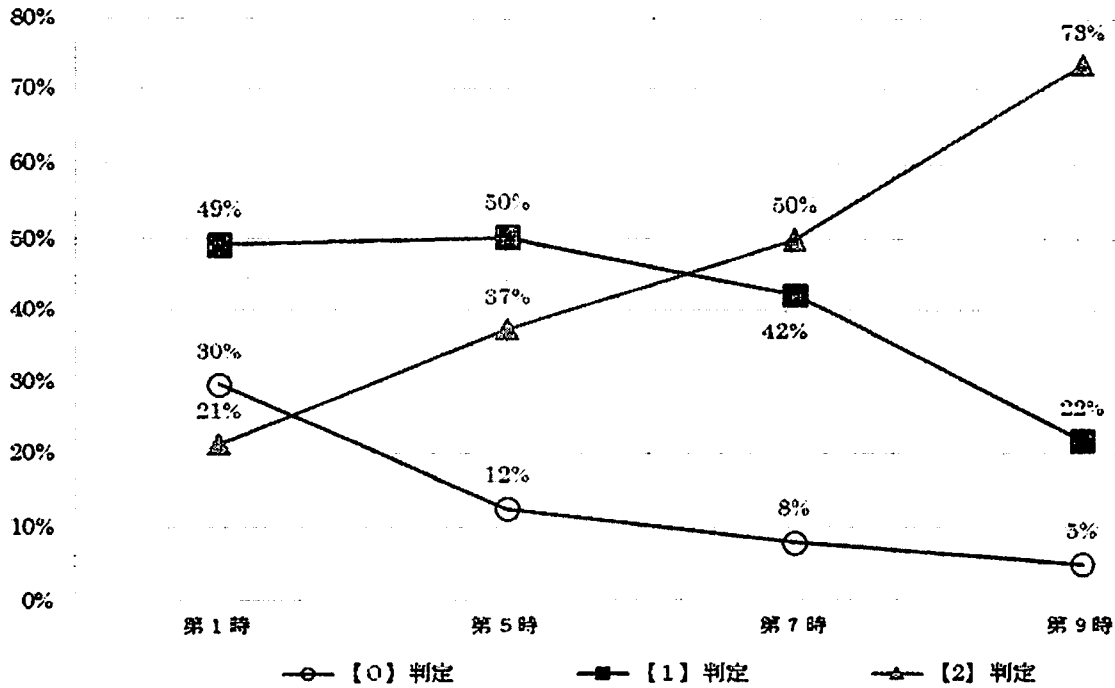
#### 【考察】

協力校の変容からも、「協同雰囲気」と「集団充実志向」に強い正の相関が見られ、SH方略も負の相関が見られた。



5 協力校の変容（技能面）

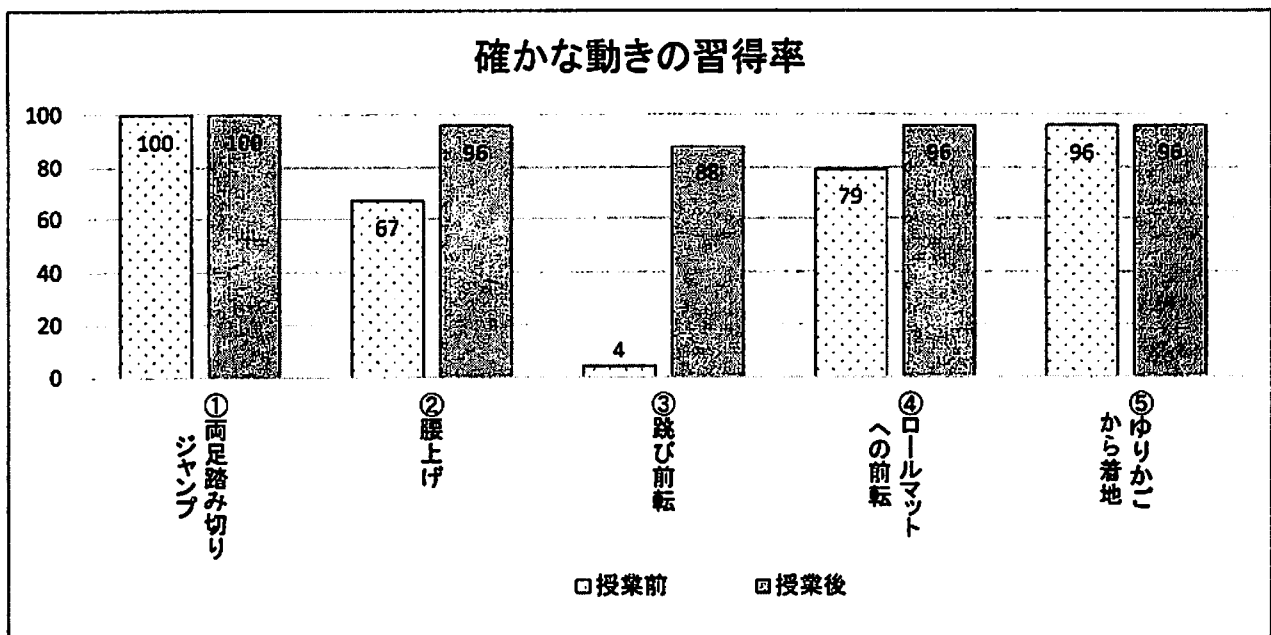
台上前転の到達度（実施校総計）



【考察】

ねらいを明確にした場を設定し、確かな動きを身につけさせたことで、どの学校でも技の習得率が上がり、台上前転の技能が向上した。

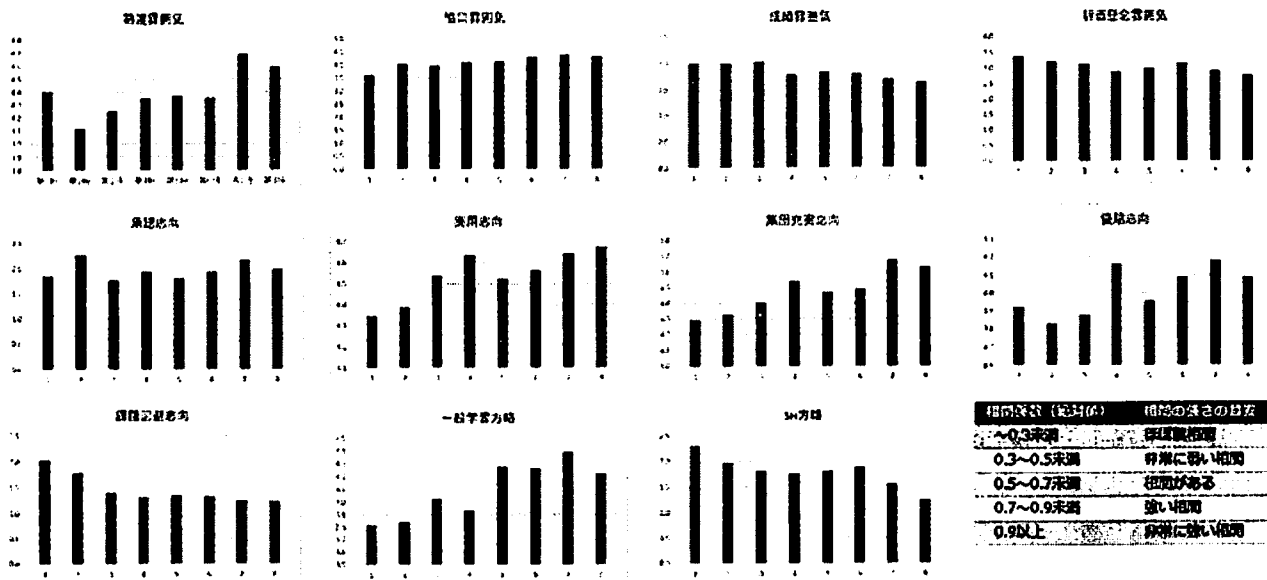
6 菊間小学校 確かな動きの変容



【考察】

単元を通して、毎時間繰り返し確かな動きづくりに取り組ませたり、教具の工夫を行ったりしたことで、確かな動きの習得率が上がった。

7 菊間小学校 動機づけ雰囲気認知、学習動機、および方略使用の関連について（全質問項目）



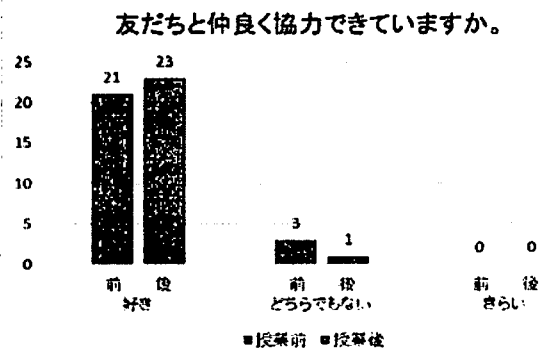
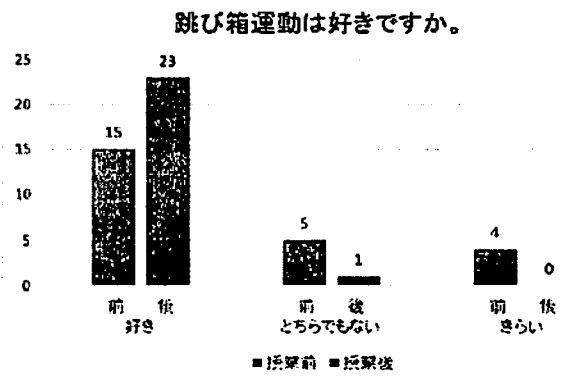
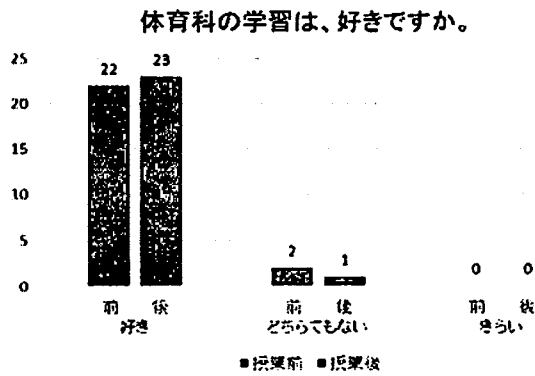
※本欄 P7 参照

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	熟達 雰囲気	協同 雰囲気	成績 雰囲気	評価懸念 雰囲気	承認 志向	実用 志向	集団充実 志向	優越 志向	課題回避 志向	一般学 習方略	S H 方略
第1時	4.40	3.63	2.00	3.37	1.84	4.34	4.29	3.32	2.02	3.82	2.26
第2時	4.32	4.03	2.01	3.20	2.27	4.39	4.82	3.53	1.75	3.64	1.98
第3時	4.26	3.96	2.04	3.12	1.76	4.54	4.40	3.87	1.39	4.02	1.80
第4時	4.35	4.01	1.79	2.87	1.83	4.63	4.54	3.18	1.31	3.93	1.76
第5時	4.37	4.15	1.85	2.98	1.80	4.52	4.47	3.88	1.35	4.23	1.81
第6時	4.35	4.32	1.81	3.15	1.94	4.56	4.48	4.09	1.03	4.25	1.86
第7時	4.70	4.39	1.71	2.90	2.16	4.64	4.88	4.03	1.24	4.33	1.67
第8時	4.58	4.33	1.84	2.78	1.95	4.67	4.63	4.08	1.21	4.22	1.75

8 各尺度の相関係数

	動機づけ雰囲気尺度				学習動機尺度				学習方略尺度		
	列 1	列 2	列 3	列 4	列 5	列 6	列 7	列 8	列 9	列 10	列 11
	熟達 雰囲気	協同 雰囲気	成績 雰囲気	評価懸念 雰囲気	承認 志向	実用 志向	集団充実 志向	優越 志向	課題回避 志向	一般学 習方略	S H 方略
行 1 (熟達雰囲気)	-										
行 2 (協同雰囲気)	+	0.51									
行 3 (成績雰囲気)	-	<sup>h</sup> 0.80	-0.81								
行 4 (評価懸念雰囲気)	-	-0.57	-0.75	0.83							
行 5 (承認志向)	+	0.07	0.37	-0.22	-0.13						
行 6 (実用志向)	+	<sup>a</sup> 0.62	0.82	-0.83	-0.91	0.01					
行 7 (集団充実志向)	+	<sup>b</sup> 0.80	0.86	-0.92	-0.89	0.20	0.94				
行 8 (優越志向)	-	<sup>c</sup> 0.75	0.67	-0.87	-0.68	0.14	0.81	0.87			
行 9 (課題回避志向)	-	-0.48	-0.87	0.73	0.85	0.06	-0.95	-0.87	-0.67		
行 10 (一般学習方略)	+	<sup>e</sup> 0.67	0.83	-0.71	-0.57	0.02	<sup>d</sup> 0.69	<sup>e</sup> 0.78	<sup>f</sup> 0.58	-0.78	
行 11 (SH 方略)	-	<sup>i</sup> 0.60	-0.80	0.80	0.92	-0.18	<sup>j</sup> 0.88	<sup>k</sup> -0.87	<sup>l</sup> 0.56	0.84	-0.64

## 9 菊間小学校 情意面の変容



### 【考察】

「わかり、できる喜び」を体験したことで、体育学習や跳び箱運動に対し、肯定的に感じる児童が増えた。また、友だちと仲良く協力できる児童も増えた。

## 10 体育学習に関するアンケート

### 動機づけ雰囲気尺度の質問項目

#### ○熟達雰囲気

- 先生は、苦手なものがなくなるように、一人ひとり熱心に教えてくれます。
- 先生は、少しずつでもクラスみんながうまくできるようになってほしいと思っています。
- 先生は、練習してうまくなったり記録を伸ばしたりしたとき、とても喜んでくれます。
- 先生は、一人ひとりが自分の課題に挑戦しているとき、とても満足しています。
- 先生は、記録や結果が悪くても、がんばったり、努力したりする人をほめます。
- 先生は、みんなができるようになったかどうか、一人ひとりのことを気にかけてくれます。

#### ○協同雰囲気

- このクラスでは、みんながうまくなるように、お互いに助け合っています。
- 体育の学習では、クラスみんなが協力しています。
- このクラスでは運動ができない人がいると、できるようにいっしょに考えてくれます。
- 結果が悪くても、がんばったり、努力したりする人がみんなから大切にされます。
- 運動ができない人がいても、みんながはげましてくれます。
- 勝敗や記録よりも、がんばる人がみんなから認められます。

#### ○成績雰囲気

- 先生は、記録や結果のことばかり気にします。
- 先生は、友だちどうしをよく比べます。
- 体育の学習では、運動がほかの人よりできるかどうか大切に思われています。
- 体育では、勝敗や記録だけが成績になります。
- 先生は、良い記録や結果を出した人ばかりをほめます。
- 体育の学習で失敗すると友だちからバカにされるので、みんなびくびくしています。

#### ○評価懸念雰囲気

- 体育の学習では、運動ができる（うまい）人がみんなから注目されます。
- 運動がうまくできるかどうか、みんなとても気にしています。

### 学習動機尺度の質問項目

#### ○承認志向

- 体育の学習では、わたしが活躍するところをみんなにみてほしいと思います。
- 体育の学習では、がんばって、ほかの人にわたしがよくできることをみせたいと思います。
- 体育の学習では、友だちや先生から注目されたいと思います。
- 体育の学習をがんばるのは、クラスみんなに注目されたいからです。

#### ○実用志向

- 体育で、体力をつけたいと思います。
- 体育の学習で、体をきたえたいと思います。
- 体育の学習で、体をじょうぶにしたいと思います。

#### ○集団・充実志向

- 体育の学習は、みんなといっしょに運動できるのが楽しいです。
- 体育の学習では、ひとりで練習するよりも、みんなといっしょに練習したいと思います。
- 体育の時間は、楽しくて、いつも短く感じます。
- 体育で学習する運動は、おもしろいものが多いと思います。

○優越志向

体育の学習で競争するときは、友だちに勝ちたいと思います。  
体育の時間に、友だちと競争して負けるのは、くやしいです。  
体育では、友だちより、よい記録を出したいと思います。

○課題回避志向

授業以外に運動をすることは、好きではありません。  
わたしは、授業で運動をするだけで、それ以上の運動はしたくありません。

**学習方略尺度の質問項目**

○一般学習方略

うまくできる人を見て、まねをして練習しています。  
うまくできる人や先生の手本などを見て、参考にしています。  
できないことや分からないことがあったら、先生や友だちに聞くようにしています。  
できるようになるまで、何度も繰り返して練習しています。  
ゲームや試合のときは、作戦を立てて取り組むようにしています。

○SH 方略

体育で習う運動がむずかしいと、わたしは、すぐにあきらめてしまいます。  
むずかしい運動やはじめての運動をするとき、わたしは一生けんめいやらない（手をぬく）ことがあります。

1 1 教え合いカード

① 自分からした教え合い・認め合いの言葉・行動	( )
② 自分から聞いて、言ってもらった教え合い・認め合いの言葉・行動	( )
③ その他	( )

1 2 参考文献

- ・小学校学習指導要領解説 体育編 文部科学省
- ・学校体育実技指導資料 第10集 器械運動指導の手引き 文部科学省
- ・小学生の体育学習における動機づけモデルの検討：動機づけ雰囲気認知、学習動機および方略使用の関連（2013 体育学研究）  
伊藤豊彦 磯貝浩久 西田保 佐々木万丈 杉山佳生 渋谷崇行
- ・平成27・28年度学校体育要覧 第30号 千葉県教育委員会
- ・教育技術MOOK 絵とことばかけでわかりやすい 跳び箱遊び跳び箱運動 八田久弥
- ・日書フォトブック 写真で見る「運動と指導」のポイント〈3〉とび箱 山本 悟
- ・体育科教育別冊21 2009.2 新学習指導要領準拠 新しい跳び箱運動の授業づくり  
高橋健夫 藤井喜一 松本格之祐